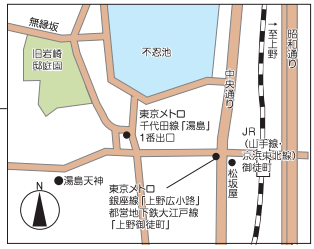
01



旧岩崎邸庭園（きゅういわさきていていえん）

指定管理者■公益財団法人　東京都公園協会

●所　在　地　台東区、文京区
●問　合　先　☎03−3823−8340（9時〜17時）　旧岩崎邸庭園サービスセンター(〒110−0008　台東区池之端1−3−45)
●交　　通　東京メトロ千代田線「湯島」下車　徒歩3分、東京メトロ銀座線「上野広小路」下車　徒歩10分、
都営地下鉄大江戸線「上野御徒町」下車　徒歩10分、JR（山手線・京浜東北線）「御徒町」下車　徒歩15分
●休　園　日　12月29日〜1月1日
●入園時間　午前9時〜午後4時30分（閉園午後5時）
●入　園　料　一般400円、65歳以上200円　※小学生以下及び都内在住・在学の中学生は無料
●無料公開日　みどりの日（5月4日）、都民の日（10月1日）

この庭園は、越後高田藩江戸屋敷から元舞鶴藩知事・牧野弼成、そして岩崎家本邸へと変遷し、往時には、１万5,000坪余りに20棟もの建物が並んでいました。

第二次世界大戦後、国有財産となり、最高裁判所司法研修所等として利用されました。平成6年（1994年）に文化庁の所管となり、平成13年（2001年）東京都の管理となりました。昭和36年（1961年）に洋館と撞球室が重要文化財に指定されました。和館大広間は洋館東脇にある袖塀とともに昭和44年（1969年）に、さらに宅地、煉瓦塀を含めた屋敷全体と実測図が平成11年（1999年）に重要文化財に指定されました。

このような経緯をもつ旧岩崎邸は、明治29年（1896年）に三菱創始者一族・岩崎家の本邸として建てられました。現存するのは洋館・撞球室・和館大広間の3棟です。洋館・撞球室は、英国人建築家・ジョサイア・コンドル（1852〜1920年）の設計。コンドルは、明治政府の招聘で、明治10年（1877年）、工部大学校造家学課程（現・東京大学工学部建築学科）の教師として来日し、大学で教鞭を執る傍ら、百を超える洋館を日本で建てました。旧岩崎邸は現存するコンドルの作品では最古の建物で、邸宅建築の傑作と言われています。

大名庭園の形式を一部踏襲している旧岩崎邸の庭は、本邸建設時に芝を張り、庭石・灯籠・築山が設けられました。建築様式同様に和と洋の要素が併存しており、「芝庭」をもつ近代庭園の初期の形を残し、その後の日本の邸宅建築に大きな影響を与えました。

洋　館

木造２階建・地下室付きの洋館は、近代日本住宅を代表する西洋木造建築です。外壁は下見板張りペンキ塗り仕上げ、屋根は天然のスレート葺きです。館内は、随所に見事なジャコビアン様式の装飾が施され、同時期に多く建てられた西洋建築にはない繊細なデザインが、往時のままの雰囲気を漂わせています。洋館南側は、列柱が並ぶベランダ（東南アジアの植民地で発達したコロニアル様式を踏襲）があり、その柱は１階はトスカナ式、２階はイオニア式の特徴をもっています。また、１階のベランダは、英国ミントン製のタイルが目地なく敷き詰められています。

洋館正面

洋館の大階段

1階ベランダの敷きつめられたタイル

開園年月日／平成13年10月1日　開園面積／20,709.25㎡（国有地の使用許可を受けています）
主な植物／イチョウ・サクラ類・ヒマラヤスギ・モッコク・モミジ類・シュロ
施設／洋館、撞球室、和館

和　館

洋館と結合された和館は、書院造りを基調にしています。完成当時は、建坪550坪に及び、洋館を遙かにしのぐ規模を誇っていました。現存する和館は、岩崎家の行事に使用された場所で、岩崎家の家紋である「重ね三階菱」を基調にした装飾が随所に配されています。また、広間の床の間には、橋本雅邦が描いたとされる日本画（富士山と波）が残っているなど、広間を中心に巧緻を極めた当時の純和風建築を垣間見ることができます。

書院前庭の大きな手水鉢

撞球室

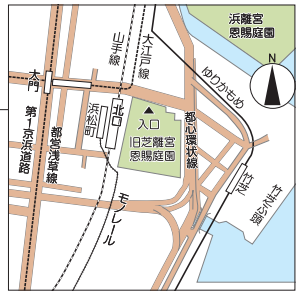
洋館から少し離れた位置に別棟として建つ撞球室（ビリヤード場）は、ジャコビアン様式の洋館とは異なり、当時の日本では非常に珍しいスイスの山小屋風の造りです。校倉造り風の壁（栗材を使用）、刻みの入った柱、軒を深く差し出した大屋根など、木造ゴシックの流れをくむデザインで、洋館とは地下道でつながっています。

庭園ガイド

ボランティアが庭園の歴史、見所などをガイドします。
毎日11時と14時に実施しています（無料）。

※5月4日「みどりの日」及び10月1日「都民の日」は無料開園日に伴い、館内混雑のためガイドをお休みします。なお、気象状況等により実施を中止する場合があります。最新の情報はサービスセンターにお問合せください。

02



旧芝離宮恩賜庭園

（きゅうしばりきゅうおんしていえん）

指定管理者■公益財団法人　東京都公園協会

●所　在　地　港区
●問　合　先　☎03−3434−4029（9時〜17時）　旧芝離宮恩賜庭園サービスセンター（〒105−0022　港区海岸1−4−1）
●交　　通　JR（山手線・京浜東北線）、東京モノレール「浜松町」下車　徒歩1分、
都営地下鉄（大江戸線・浅草線）「大門」下車　徒歩3分、
ゆりかもめ「竹芝」下車　徒歩10分
●休　園　日　12月29日〜1月1日
●入園時間　午前9時〜午後4時30分（閉園午後5時）
●入　園　料　一般150円、65歳以上70円　※小学生以下及び都内在住・在学の中学生は無料
●無料公開日　みどりの日（5月4日）、都民の日（10月1日）

東京に残る江戸初期の大名庭園の一つです。回遊式泉水庭園の特徴をよくあらわした庭園で、池を中心とした庭園の区画や石の配置は、非常に優れています。

明暦（1655 〜1658年）の頃に海面を埋め立てた土地を、延宝6年（1678年）に老中・大久保忠朝が4代将軍家綱から拝領しました。

忠朝は屋敷を建てるにあたり、藩地の小田原から庭師を呼び庭園を造ったと言われています。庭園は「楽壽園（らくじゅえん）」と呼ばれていました。

庭園は、幾人かの所有者を経たのち、幕末頃は紀州徳川家の芝御屋敷となりました。明治4年には有栖川宮家の所有となり、同8年に宮内省が買上げ、翌9年に芝離宮となりました。離宮は、大正12年の関東大震災の際に建物や樹木に大変な被害を受けました。

翌年の大正13年1月には、皇太子（昭和天皇）のご成婚記念として東京市に下賜され、園地の復旧と整備を施し、同年4月に一般公開しました。また、昭和54年6月には、文化財保護法による国の「名勝」に指定されました。

大泉水（だいせんすい）

大泉水は、この庭園の中心的な要素です。かつては海水を引き入れた「潮入りの池」で、引き潮の時は中島から浮島に渡れたり、潮の干満により州浜や島々の風景が変化したといわれています。今は残念ながら海水の取り入れがなくなり、淡水の池になっています。

西湖の堤（せいこのつつみ）

西湖は、中国の杭州（現在の浙江省）にある湖、西湖堤は風光明媚な西湖の蘇堤を模した石造りの堤です。古来、詩歌や絵画の題材として珍重されました。

西湖の堤

州浜と雪見灯籠

開園年月日／大正13年4月20日　開園面積／43,175.36㎡（うち開放公園1,139.96㎡）
主な植物／クロマツ・ケヤキ・クスノキ・サクラ類・タブノキ・アジサイ・ツツジ類・フジ　施設／弓道場（和弓用）、児童公園
弓道場（和弓）9:00〜16:00　使用料／1時間140円、道具持参、毎週月曜日の午前中は、整備のため利用できません。
（月曜日が祝休日の場合、直近の平日の午前中は利用休止。）

中　島

池の中央にある中島は、中国で仙人が住み不老不死の地といわれる「蓬莱山」を表しています。この島の石組は、楽壽園の頃からのものです。

藤棚と四季の花々

入口付近には大きな藤棚があります。4月の末頃、紫色の大きな花房がさがり、芳香を放ちます。

園内では他にも、ウメ、サクラ、ツツジ、アジサイ、ボタン、ककिョウ、ハギ、スイセンなど四季折々の花がみられます。

藤棚

枯　滝

山峡を流れ落ちる滝を彷彿とさせる石組み。流れの河床が通路になっていて、景観の変化を楽しむことができます。

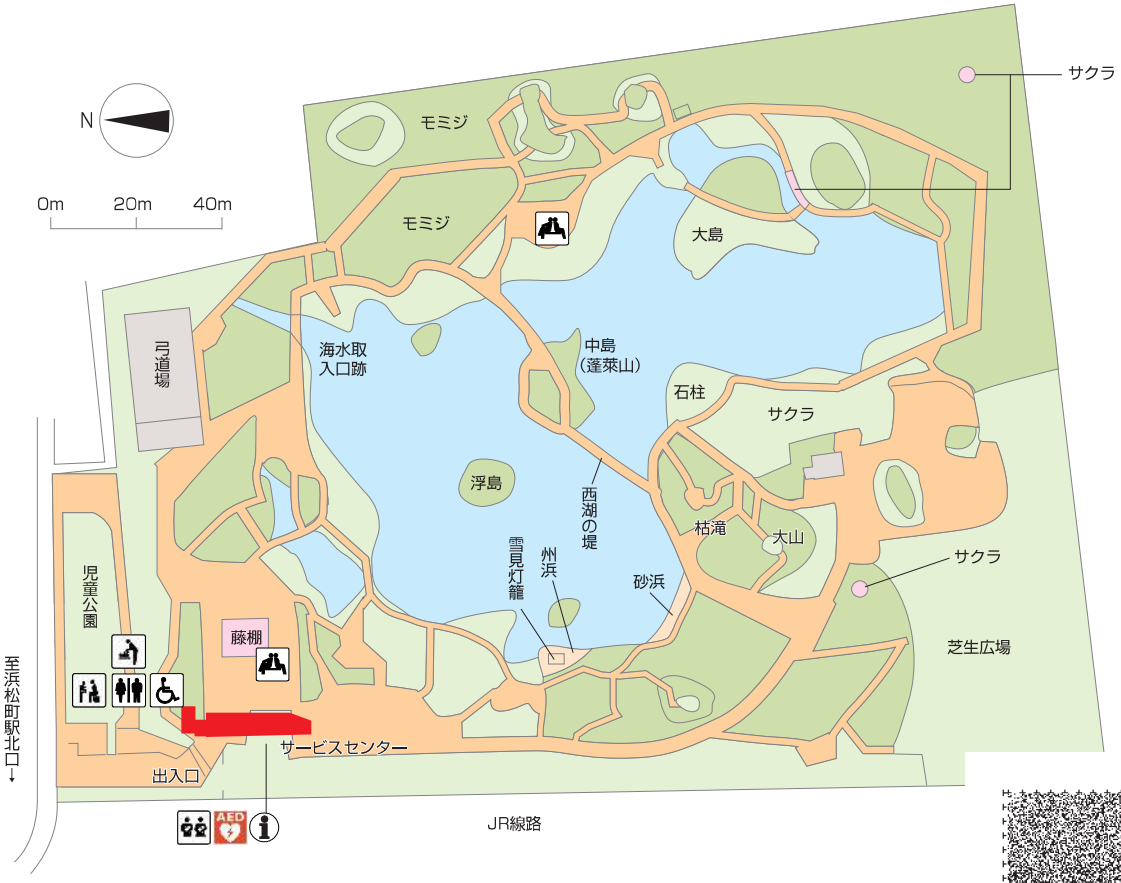
大山からの眺望

大　山

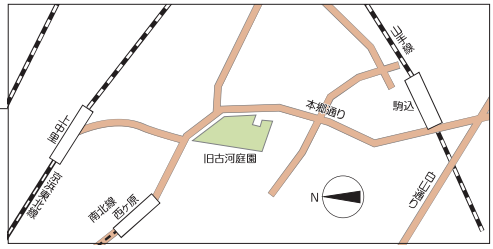
庭園内の最も高い築山で、頂上からの眺めが見事です。また、左右の築山と構成される稜線の変化は、池の対岸から見ると味わい深いものがあります。

庭園ガイド

ボランティアが庭園の歴史、見所などをガイドします。
土曜・日曜の14時に実施しています（無料）。
※気象状況等により実施を中止する場合があります。当日の実施についてはサービスセンターにお問合せください。



03



旧古河庭園（きゅうふるかわていえん）

指定管理者■公益財団法人　東京都公園協会

●所　在　地　北区
●問　合　先　☎03−3910−0394（9時〜17時）　旧古河庭園サービスセンター（〒114−0024　北区西ヶ原1−27−39）
●交　　通　JR京浜東北線「上中里」下車　徒歩7分、東京メトロ南北線「西ヶ原」下車　徒歩7分、JR山手線「駒込」下車　徒歩12分
●休　園　日　12月29日〜1月1日
●入園時間　午前9時〜午後4時30分（閉園午後5時）
●入　園　料　一般150円、65歳以上70円　※小学生以下及び都内在住・在学の中学生は無料
●無料公開日　みどりの日（5月4日）、都民の日（10月1日）

山の手台地の南斜面という地形を活かし、北側の小高い丘には洋館を建て、斜面には明るい洋風庭園、そして低地には池を中心とした日本庭園を配したのがこの庭園の特徴です。

この場所はもともと明治の元勲・陸奥宗光の邸宅でしたが、宗光の次男が古河家の養子となり、古河家の所有になった後、三代目古河虎之助が現在の庭園を造りました。戦後には国へ所有権が移りましたが、現在は東京都が国から無償で借り受け、一般公開するようになりました。

洋館と洋風庭園の設計者は、明治から大正にかけて活躍した英国人建築家・ジョサイア・コンドル（1852〜1920年）です。彼は旧岩崎久彌邸（旧岩崎邸庭園121ページ）、鹿鳴館、ニコライ堂などの設計を手がけ、わが国建築界の発展に多大な貢献をしました。

日本庭園は京都の著名な庭師・植治（うえじ）こと七代目小川治兵衛の手によるもので、洋風庭園に勝るとも劣らない名園を造りあげています。

バラと洋館

旧古河庭園は、数少ない大正初期の庭園の原型をとどめる貴重な存在として、昭和57年8月4日に東京都文化財に指定され、平成18年1月に国指定名勝となっています。

洋館

スコットランドの城郭や民家の要素を採り入れた絵画的建築様式。屋根は天然スレートぶき、外壁はレンガ造りで真鶴産の赤味をおびた新小松石（安山岩）が張られており、雨に濡れると落ち着いた色調をかもしだします。

館内見学・休館日等問合先
（公財）大谷美術館　☎03-3910-8440
※別途入館料が必要です。

テラス式庭園

花壇を中心にした三段のゆるやかな階段状の庭園。第一段テラスは、バラ、ユッカ、シュロの花壇からなり、斜面は各種のツツジ、サツキが植えられています。新小松石の石段を降りると第二段テラスとなります。ここは左右対称の「幾何学模様花壇」でバラをイブキ、ハクチョウゲ、ツゲなどの低い刈込が縁どっています。第三段テラスは、ツツジの植込が広がっています。

庭園内のバラ園は特に有名で、洋館とマッチした約100種200株のバラを年2回（5月〜6月下旬・10月〜11月下旬）楽しむ事ができます。

バラが咲き誇るテラス式庭園

開園年月日／昭和31年4月30日　開園面積／30,780.86㎡（国有地の無償貸付を受けています）
主な植物／イイギリ・イヌビワ・エノキ・サクラ類・スダジイ・ハゼノキ・ヒサカキ・ヒマラヤスギ・マツ類・モチノキ・ヤブツバキ・ブラシノキ・ツツジ類・バラ・モミジ・ジャーマンアイリス　施設／洋館、茶室（（公財）大谷美術館の管理　☎03−3910−8440）

深山の境

日本庭園への入口は、シイを主体にした濃い植込で、明るい洋風庭園とは雰囲気が一変します。さらに奥は、足元のササ類とシイ、モチノキ、エノキ、モミジなどで構成され、渓谷が入り込み、深山幽谷の観を呈しています。

心字池

「心」の草書体を形取った池で、日本庭園の中心。鞍馬平石や伊予青石などが配され、船着石があります。ここは池を眺めるための要となる所で、正面には荒磯、雪見灯籠、枯滝石組み、その背後には築山が見られます。

秋の日本庭園

枯　滝

水を使わないで山水の景観を表現する「枯山水」の道具立ての一つが枯滝。心字池の洲浜の奥に、御影石や青石で渓谷が組まれ、流れを五郎太石で表現しています。

見晴台

枯滝の後ろに築山があり、その上から雪見灯籠や心字池が見渡せます。

大　滝

地形を利用して造られた10数mの高所から落ちる滝。園内の最も勾配の急な所をさらに削って断崖とし、濃い樹林でおおわれています。

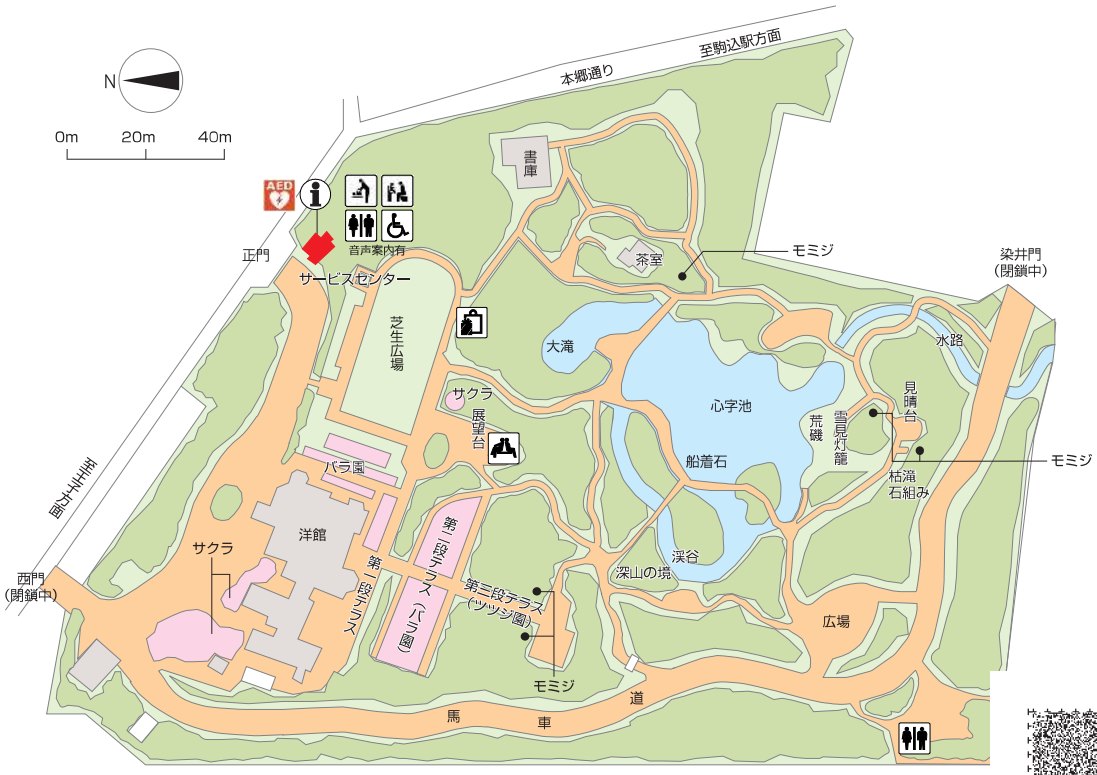
曲折した二筋の流れから数段の小滝となり、最後に一つとなって深い淵に落ちるという凝った造りです。以前は井戸を水源にしていましたが、現在は井戸水に加え池水を循環利用しています。

展望台

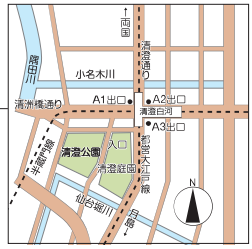
洋風庭園の芝生広場のそばにあり、斜面に突き出た台地には四阿があります。周囲にはダイオウショウ、リギダマツといった珍しい木も植えられています。

庭園ガイド

ボランティアが庭園の歴史、見所などをガイドします。
土曜・日曜・祝日の11時と14時に実施しています（無料）。
※気象状況等により実施を中止する場合があります。当日の実施についてはサービスセンターにお問合せください。



04



清澄庭園（きよすみていえん）

指定管理者■公益財団法人　東京都公園協会

●所　在　地　江東区
●問　合　先　☎03−3641−5892（9時〜17時）　清澄庭園サービスセンター（〒135−0024　江東区清澄3−3−9）
●交　　通　都営地下鉄大江戸線・東京メトロ半蔵門線「清澄白河」下車　徒歩3分
●休　園　日　12月29日〜1月1日
●入園時間　午前9時〜午後4時30分（閉園午後5時）
●入　園　料　一般150円、65歳以上70円　※小学生以下及び都内在住・在学の中学生は無料
●無料公開日　みどりの日（5月4日）、都民の日（10月1日）

泉水、築山、枯山水を主体にした「回遊式林泉（りんせん）庭園」です。この造園手法は、江戸時代の大名庭園に用いられたものですが、明治時代の造園にも受けつがれ、清澄庭園によって近代的な完成をみたといわれています。

この地の一部は江戸の豪商・紀伊國屋文左衛門の屋敷跡と言い伝えられています。享保年間（1716〜1736年）には、下総国関宿藩主（しもうさのくにせきやど）・久世大和守（くぜやまとのかみ）の下屋敷となり、その頃にある程度庭園が形づくられたようです。

明治11年、岩崎彌太郎が、荒廃していたこの邸地を買い取り、社員の慰安や貴賓を招待する場所として庭園造成を計画、明治13年に「深川親睦園」として一応の竣工をみました。彌太郎の亡きあとも造園工事は進められ、隅田川の水を引いた大泉水を造り、周囲には全国から取り寄せた名石を配して、明治の庭園を代表する「回遊式林泉庭園」が完成しました。

清澄庭園は、関東大震災で大きな被害を受けましたが、この時図らずも災害時の避難場所としての役割を果たし、多数の人命を救いました。岩崎家では、こうした庭園の持つ防災機能を重視し、翌大正13年破損の少なかった東側半分（現庭園部分）を東京市に寄付し、市ではこれを整備して昭和7年7月に公開しました。

また、昭和52年には庭園の西側に隣接する敷地を開放公園として追加開園しました。ここには広場、パーゴラなどがあります。なお、庭園の方は、昭和54年3月31日に東京都の名勝に指定されています。

泉水

三つの中島を配した広い池。水面に島や数寄屋造りの建物、樹々の影を映しだすこの池は、庭園の要です。昔は隅田川から水を引いていました。そのため潮の干満によって池の景観が微妙に変化したといわれています。現在は、雨水でまかなっています。

磯渡りから涼亭を望む

磯渡り（いそわた）

池の端に石を飛び飛びに置いて、そこを歩けるようにしたもの。広々とした池の眺めが楽しめるだけでなく、歩を進める度に景観が変化するように配慮されています。

名　石

伊豆石、伊予青石、紀州青石、生駒石、佐渡赤玉石、備中御影石、讃岐御影石。これらは庭園に置かれた庭石のうち代表的なものです。このほか敷石や橋、先の磯渡りの石を含め、園内には無数の石が配置され、さながら「石庭」の観を呈しています。これらの石は、岩崎家が自社の汽船を用いて全国の石の産地から集めたものです。

富士山

この庭園で最も高く大きな築山。関東大震災以前は、この築山の山頂近くには樹木を植えず、サツキ、ツツジの灌木類を数列横に配して、富士山にたなびく雲を表現したものだと言われています。

開園年月日／昭和7年7月24日　開園面積／81,091.27㎡（うち開放公園43,656.95㎡）
主な植物／クロマツ・サクラ（カンヒザクラ・サトザクラほか）・アジサイ・ツツジ類・ハナショウブ
施設／集会場（涼亭、大正記念館）、児童公園、開放公園（清澄公園）、深川図書館（江東区）、清澄児童遊園（江東区）

富士山からの眺め

大正記念館

大正天皇の葬儀に用いられた葬場殿を移築したもの。最初の建物は戦災で焼失したため、昭和28年に貞明皇后の葬場殿の材料を使って再建、平成元年４月に全面的に改築されました。集会場として利用できます。

涼　亭

池に突き出るようにして建てられた数寄屋造りの建物で明治42年国賓として来日した英国のキッチナー元帥を迎えるために岩崎家が建てたもの。震災と戦火の被害からまぬがれ今日に至りましたが、昭和60年度に全面改築工事を行い、平成17年には「東京都選定歴史的建造物」に選定されました。集会場として利用できます。

集会場として利用できる涼亭

バードウォッチング

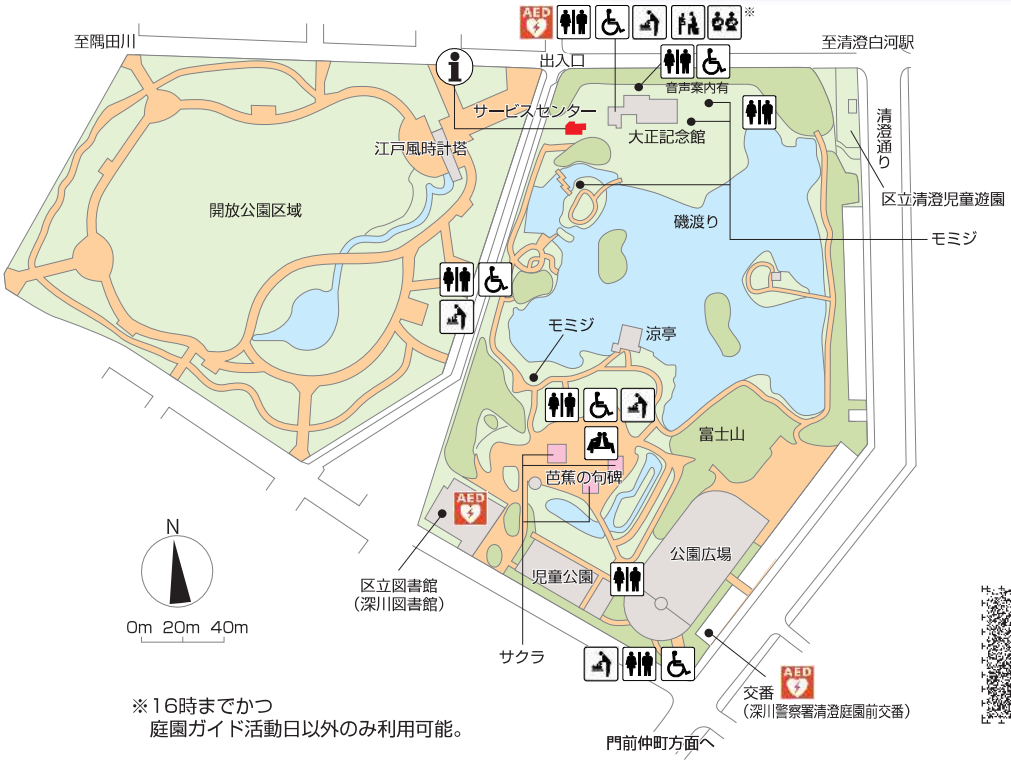
川と海に近いこともあって種々の野鳥がくることでも知られています。通年見られるのはカルガモ、キジバト、ヒヨドリ、オナガ、ムクドリ、シジュウカラ、アオサギ、カワウなど。夏に見られるのは、コアジサシ、ツバメ。冬はキンクロハジロ、ホシハジロ、オナガガモ、ヒドリガモ、モズ、メジロなどがきます。

清澄庭園の花ごよみ

1~2月	ツバキ、ウメ、フクジュソウ、スイセン
3~4月	カンヒザクラ、サトザクラ、ツツジ、アセビ、サンシュユ、ユキヤナギ
5~6月	サツキ、ハナショウブ、アジサイ
7~8月	サルスベリ、タイワンニンジンボク
9~10月	ハギ、ヒガンバナ、シュウメイギク
11~12月	サザンカ、ツワブキ

庭園ガイド

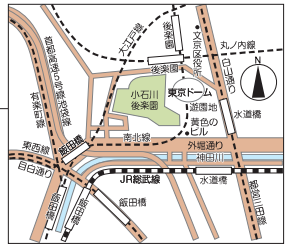
ボランティアが庭園の歴史、見所などをガイドします。
土曜、日曜、祝日の11時と14時に実施しています（無料）。
※気象状況等により実施を中止する場合があります。当日の実施についてはサービスセンターにお問合せください。
※7月、8月のガイドは休止となります。



※16時までかつ
庭園ガイド活動日以外のみ利用可能。

05

小石川後楽園



指定管理者■公益財団法人　東京都公園協会

●所　在　地　文京区
●問　合　先　☎03−3811−3015(9時〜17時)　小石川後楽園サービスセンター(〒112−0004　文京区後楽1−6−6)
●交　　通　【東門】JR総武線「水道橋」下車　徒歩5分
　　都営地下鉄三田線「水道橋」下車　徒歩8分、東京メトロ(丸ノ内線・南北線)「後楽園」下車　徒歩6分
　　【西門】都営地下鉄大江戸線「飯田橋」下車　徒歩3分、JR総武線「水道橋」・「飯田橋」下車　徒歩8分
　　東京メトロ「飯田橋」下車　徒歩8分、東京メトロ(丸ノ内線・南北線)「後楽園駅」下車　徒歩8分
●休　園　日　12月29日〜1月1日
●入園時間　午前9時〜午後4時30分(閉園午後5時)
●入　園　料　一般300円、65歳以上150円　※小学生及び都内在住・在学の中学生は無料
●無料公開日　みどりの日(5月4日)、都民の日(10月1日)

江戸時代初期、寛永6年（1629年）に水戸徳川家の祖である頼房が、江戸の中屋敷（明暦の大火後に上屋敷となる）に造ったもので、二代藩主の光圀の代に完成した庭園です。光圀は作庭に際し、明の儒者である朱舜水の意見をとり入れ、中国の教え岳陽楼記の「(士はまさに）天下の憂に先だって憂い、天下の楽しみに後れて楽しむ」から【後楽園】と名づけました。

この地は小石川台地の先端にあり、神田上水を引き入れ築庭されました。庭園は池を中心にした「回遊式築山泉水庭園」になり、湖（海）・山・川・田園などの景観が巧みに表現されています。

また、園内は光圀の儒学思想の影響の下、随所に中国の名所にちなんだ景観が配されています。

なお、小石川後楽園は昭和27年3月、文化財保護法によって特別史跡及び特別名勝に指定されています。

琵琶湖に見立てられた大泉水

大泉水

この庭園の中心的景観。蓬莱島と竹生島を配し、琵琶湖を模した湖の景色を造り出したもので、昔はこの池で舟遊びをしたといわれています。

白糸の滝

流れる水が千条の白糸をたれているように見えるので、この名が付けられました。

大堰川

川の景色を代表する場所。その名は、京都嵐山を流れる大堰川にちなんでおり、昔は神田上水から水車で水を汲みあげて流していました。

西湖の堤

中国の杭州（現在の浙江省）の西湖の堤を模したもの。大堰川の下流に一直線に走る石堤は、この庭園の円月橋とともに日本庭園史に特筆される建造物です。都立庭園では旧芝離宮恩賜庭園にも見られます。

得仁堂

光圀18歳の時、史記「伯夷列伝」に感銘を受け、伯夷・叔斉の木像を安置した堂です。得仁堂の名前は、孔子が伯夷・叔斉を評して「仁を求め仁を得たり」と語ったことによります。

開園年月日／昭和13年4月3日　開園面積／70,847.17㎡
主な植物／イロハモミジ・ウメ・クロマツ・シダレザクラ・スダジイ・タブノキ・ヤブツバキ・スイレン・オカメザサ・ハス・ハナショウブ・ヒガンバナ　催物／田植え(5月)、花菖蒲まつり(6月)、案山子作り(9月)、稲刈り(10月)、紅葉まつり(11〜12月)、梅まつり(2月〜3月)　施設／集会場(涵徳亭)

円月橋

光圀が厚くもてなした明の儒学者朱舜水が設計したといわれる石橋。橋本体と水面に映る姿を合わせると満月のように見えるので、この名がつけられました。

稲　田

園の北側地域は、田園風景が展開しています。都立庭園の中に稲田があるのは、小石川後楽園だけです。これは光圀が彼の嗣子・綱條の夫人に農民の苦労を教えようと作った田圃で、昭和50年（1975年）から毎年、地元文京区内の小学生が、田植え、稲刈りを行い伝統行事を守り継いでいます。

内　庭

水戸藩の御殿の庭であった所で、唐門で仕切られ、大泉水のある「後園」と分かれていました。昔の姿をそのままとどめているといわれます。

唐　門

水唐門は、水戸藩上屋敷の書院の庭である「内庭」から、大泉水のある庭園へと向かう正式な入口で、小石川後楽園の観賞動線の始点となります。戦災で焼失しましたが、令和2年12月に復元公開されました。

九八屋

松原のはずれに立つ、茅ぶきの風流な建物。江戸時代の酒亭を庭の景観としてとりいれたもの。

ハナショウブと九八屋

一つ松

琵琶湖のほとりにある近江八景の一つ「唐崎の松」に見立てたアカマツです。

梅　林

梅は「学問にはげめば梅の花が咲く」と言う故事にちなみ「好文木」とも呼ばれています。初春には約150本の梅の花が開花します。

庭園ガイド

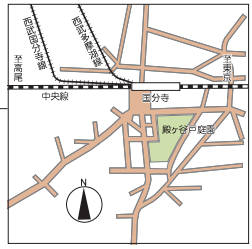
ボランティアが庭園の歴史、見所などをガイドします。土曜、日曜、月曜、祝日の11時と14時に実施しています（無料）。

※気象状況等により実施を中止する場合があります。当日の実施についてはサービスセンターにお問合せください。

唐門

※管理上の都合により、お貸しできない場合もございます。

06



殿ヶ谷戸庭園（とのがやとていえん）

指定管理者■公益財団法人　東京都公園協会

●所　在　地　国分寺市
●問　合　先　☎042−324−7991（9時〜17時）　殿ヶ谷戸庭園サービスセンター（〒185−0021　国分寺市南町2−16）
●交　　通　JR中央線・西武（国分寺線・多摩湖線）「国分寺」下車　徒歩2分
●休　園　日　12月29日〜1月1日
●入園時間　午前9時〜午後4時30分（閉園午後5時）
●入　園　料　一般150円、65歳以上70円　※小学生以下及び都内在住・在学の中学生は無料
●無料公開日　みどりの日（5月4日）、都民の日（10月1日）

武蔵野の自然の地形、すなわち段丘の崖にできた谷を巧みに利用した和洋折衷の「回遊式林泉庭園」。入口からのモッコクの列植を抜けると、崖上は「明るい芝生地にアカマツ」と広々とした空間になっており、崖下は「湧水を利用した林泉と竹林」のコントラストが特徴的です。

ここは、大正2年から4年に江口定條（後の満鉄副総裁）の別荘として整備され、昭和4年には三菱財閥の岩崎家の別邸となりました。昭和40年代の開発計画に対し本庭園を守る住民運動が発端となり、昭和49年に都が買収し、整備後に有料庭園として開園しました。

なお、庭園の名称は、昔この地が国分寺村殿ヶ谷戸という地名であったことに由来します。

平成10年には、東京都指定の文化財（名勝）となり、平成23年に国指定の文化財（名勝）となりました。

モミジ

園内に約200本のモミジがあり新緑の頃、そして11月下旬から12月始めの紅葉の頃、紅葉亭から見下ろすイロハモミジと池の眺めは絶景です。

武蔵野の植生

国分寺崖線の南縁にあり、典型的な段丘崖を含んだ地形に造られているので、武蔵野台地と国分寺崖線の自然植生が良好な状態で保存されています。

花　木

早春のロウバイやウメ、春のコブシ、初夏のフジ、夏のエゴ、秋はハギのトンネルなど花木が美しく咲き、庭園に彩をそえております。

秋の紅葉

野　草

2月の初旬に咲くフクジュソウ、春を彩るカタクリ、ニリンソウ、ヒトリシズカ、シュンランが、初夏にはシライトソウやホタルブクロなどが、夏には白く芳香を放つヤマユリ、清楚なレンゲショウマ、オレンジ色のキツネノカミソリなどが、秋にはホトトギスなどの豊かな武蔵野の自然の姿が見られ、さまざまな山野草に出会うことができます。

モッコク

園内で一番多い樹木は岩崎氏が好んで植えたといわれるモッコクで、その数は300本をこえます。

また、崖下にモウソウチクの林があり、景観に変化をそえています。

竹林（モウソウチク）

開園年月日／昭和54年4月1日　開園面積／21,123.59㎡
主な植物／アカマツ・イロハモミジ・ハギ・モッコク・ツツジ類・フジ・モウソウチク・カタクリ・ヒトリシズカ・ニリンソウ・レンゲショウマ
施設／集会場（紅葉亭）

大芝生からサービスセンターを望む

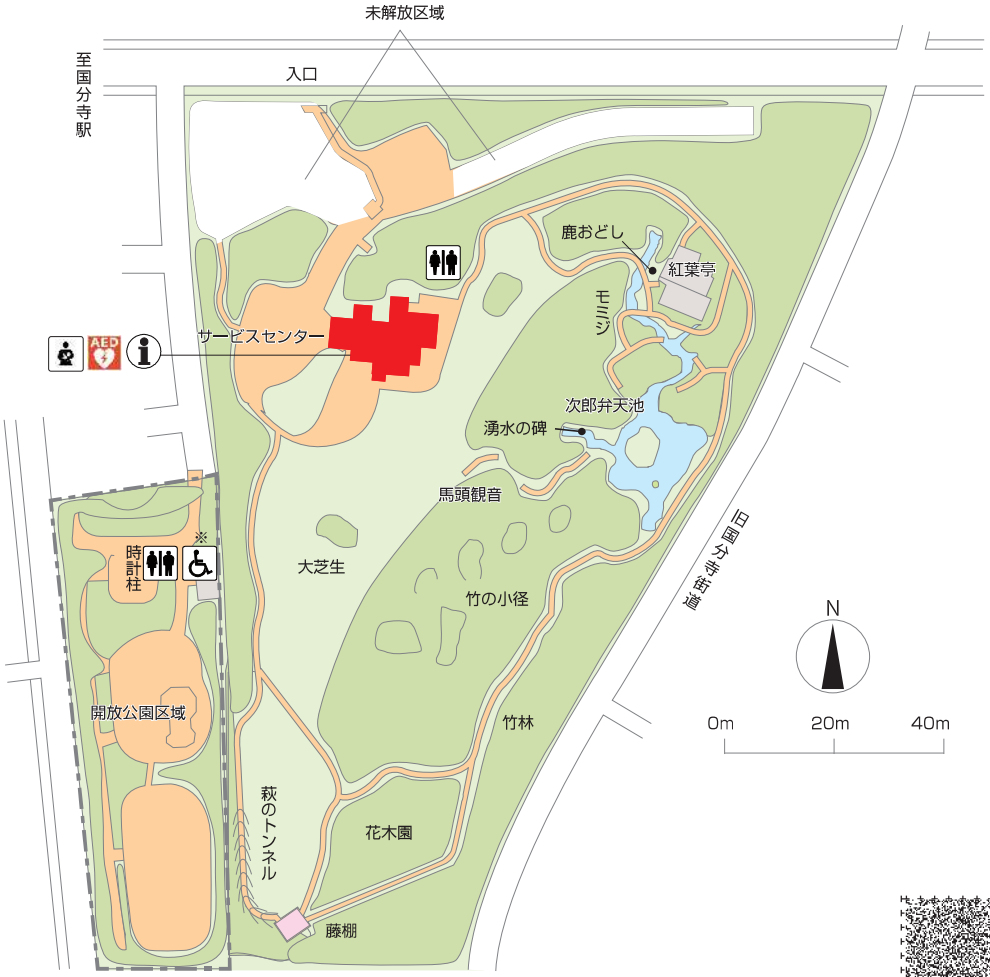
紅葉亭から次郎弁天池を望む

主屋と芝生地

昭和9年に建てられた洋館。内部は日本間と洋間が融和した和洋折衷の形式となっています。

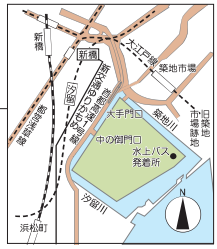
湧水と池

池の水源である湧き水は、古くは「次郎弁天の清水」と言われた名水でした。



※車椅子使用者対応トイレは有料区域外（開放公園区域）に有。

07



浜離宮恩賜庭園（はまりきゅうおんしていえん）

指定管理者■公益財団法人　東京都公園協会

●所　在　地　中央区
●問　合　先　☎03−3541−0200　浜離宮恩賜庭園サービスセンター（〒104−0046　中央区浜離宮庭園1−1）
●交　　通　大手門口：都営地下鉄大江戸線「汐留」「築地市場」・ゆりかもめ「汐留」下車徒歩7分、
JR・東京メトロ銀座線・都営地下鉄浅草線「新橋」下車徒歩12分
中の御門口:都営地下鉄大江戸線・ゆりかもめ「汐留」下車徒歩5分、JR（京浜東北線・山手線）「浜松町」下車徒歩15分
駐車場（来園の観光バスと障害者の車両は駐車可）
●休　園　日　12月29日〜1月1日
●入園時間　午前9時〜午後4時30分（閉園午後5時）
●入　園　料　一般300円、65歳以上150円　※小学生以下及び都内在住・在学の中学生は無料
●無料公開日　みどりの日（5月4日）、都民の日（10月1日）

潮入（しおいり）の池と二つの鴨場（かもば）をもつ江戸時代の代表的な大名庭園。江戸時代には江戸城の出城としての機能もあわせもち、城郭の構造を今も残しています。潮入の池とは、海水を導き、潮の満（み）ち干（ひ）きによって池の趣を変えるもので、海辺の庭園で多く用いられていた様式です。

しかし現在、実際に海水が出入りしているのは、江戸時代から続く東京の庭園ではここだけです。浜離宮は、この大名庭園を中心にした南庭と、明治時代以降に屋敷跡地に造られた簡素な北庭とに大別されます。

この地は、寛永年間（1624〜1644年）までは、将軍家の鷹狩場で、一面の芦原でした。ここに初めて屋敷を建てたのは、四代将軍家綱の弟で甲府宰相の松平綱重。承応3年（1654年）、綱重は将軍からこの地を賜り、海を埋め立てて甲府浜屋敷と呼ばれる別邸を建てました。その後、綱重の子供の綱豊（家宣）が六代将軍になったのを契機に、この屋敷は将軍家のものとなり、名称も浜御殿と改められました。

以来、歴代将軍によって幾度かの造園、改修工事が行なわれ、11代将軍家斉のときにほぼ現在の姿の庭園が完成しました。

明治維新ののちは皇室の離宮となり、名前も浜離宮となりました。その後、関東大震災や空襲によって、大手門、御茶屋など数々の建造物や樹木が損傷し、往時の面影はなくなりましたが、昭和20年11月3日、東京都に下賜され、翌21年4月1日整備のうえ公開（無料、記帳式）、同年6月1日から有料公開を開始しました。なお、国の文化財保護法に基づき、昭和23年12月には国の名勝及び史跡に、同27年11月には周囲の水面を含め（指定面積32.4ha）、国の特別名勝及び特別史跡に指定されました。

潮入の池

潮入の池は海水。東京湾の水位の上下に応じて水門を開閉し、池の水の出入りを調節しています。池にはボラなどの海水魚が棲んでいます。石組にはベンケイガニがすみ、フジツボがついています。また、シラサギやアオサギなどが園内に生息し水面を舞う姿が見られます。

潮入の池と中島の御茶屋

鴨　場

庚申堂鴨場（こうしんどうかもば）と新銭座鴨場（しんせんざかもば）の二つがあります。築造は、前者が1778年、後者が1791年という古いもの。鴨場は池と林を3mほどの土手で囲い、土手には常緑樹や竹笹をびっしりと植え、鴨が安心して休息できるように外部と遮断しました。ここでは池に幾筋かの引堀（細い堀）を設け、小覗から鴨の様子をうかがいながら、稗（ひえ）・粟（あわ）などのエサとおとりのアヒルで鴨を引堀におびきよせ、機をみて土手の陰から江戸時代は鷹を飛ばし、離宮時代では網をかぶせるという猟を行っていました。

庚申堂鴨場の小覗と引堀

開園年月日／昭和21年4月1日　開園面積／250,215.72㎡
主な植物／ウメ・クロマツ・サクラ・サルスベリ・タブノキ・ハゼノキ・フジ・トウカエデ・イロハモミジ・アジサイ・サツキ・ツバキ・コスモス・ナノハナ・ハナショウブ　施設／集会場（芳梅亭）

鴨　塚

鴨猟で獲物となった鴨の霊を慰めるために、昭和10年11月5日に建てられました。

お伝い橋と中島の御茶屋

潮入の池の岸と中島を結ぶ、お伝い橋。中島には「中島の御茶屋」があり、水面に映える橋と御茶屋の姿は、風趣に富んでいます。かつては、海のかなたに房総を望め、夕涼みや月見に使われたようです。現在の御茶屋は、昭和58年に再建され、抹茶と和菓子（有料）を楽しむこともできます。

潮入の池と御茶屋（左から中島の御茶屋、燕の御茶屋、鷹の御茶屋、松の御茶屋）

庭園ガイド

ボランティアが庭園の歴史、見所などをガイドします。
土曜・日曜・祝日の11時と14時に実施しています（無料）。
※気象状況等により実施を中止する場合があります。当日の実施についてはサービスセンターにお問合せください。

松の御茶屋・燕の御茶屋・鷹の御茶屋

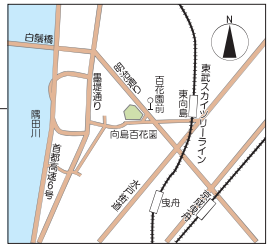
11代将軍家斉の時代に池のほとりに建てられた御茶屋。戦災で焼失しましたが、残された礎石などの遺構を調査し、平成22年度に松の御茶屋、26年度に燕の御茶屋、29年度に鷹の御茶屋を復元。史料に忠実な建築により、往時をしのばせる景色がよみがえりました。

三百年の松

六代将軍家宣が、庭園を大改修したとき、その偉業をたたえて植えられたと言われる松。太い枝が低く張り出し、堂々たる姿を誇っています。

三百年の松

08



向島百花園（むこうじまひゃっかえん）

指定管理者■公益財団法人　東京都公園協会

●所　在　地　墨田区
●問　合　先　☎03−3611−8705（9時〜17時）　向島百花園サービスセンター（〒131−0032　墨田区東向島3−18−3）
●交　　通　東武スカイツリーライン「東向島」下車　徒歩8分、京成押上線「京成曳舟」下車　徒歩13分
JR総武線「亀戸」から都営バス「百花園前」下車 徒歩2〜3分、
JR山手線「日暮里」から都営バス「百花園前」下車 徒歩2〜3分
●休　園　日　12月29日〜1月3日
●入園時間　午前9時〜午後4時30分（閉園午後5時）
●入　園　料　一般150円、65歳以上70円　※小学生以下及び都内在住・在学の中学生は無料
●無料公開日　みどりの日（5月4日）、都民の日（10月1日）

江戸の町人文化が花開いた文化・文政期（1804〜1830年）に造られた花園。庭を造ったのは、それまで骨とう商を営んでいた佐原鞠塢（さはらきくう）。交遊のあった江戸の文人墨客（ぶんじんぼっかく）の協力を得て、元旗本、多賀氏の屋敷跡である向島の地に、花の咲く草木観賞を中心とした「民営の花園（かえん）」を造り、開園しました。

開園当初は、360本のウメが主体で、当時有名だった亀戸の梅屋敷に対して「新梅屋敷」と呼ばれたほどです。その後、ミヤギノハギ、ススキ、ककキョウなど詩経、万葉集など中国、日本の古典に詠まれている有名な植物を集め、四季を通じて花が咲くようにしました。「百花園」の名称は、一説には「四季百花の乱れ咲く園」という意味でつけられたといわれています。

百花園は当時の一流文化人達の手で造られた庶民的で、文人趣味豊かな庭として、小石川後楽園や六義園などの大名庭園とは異なった美しさを持っています。

民営としての百花園の歴史は昭和13年まで続き、同年10月に最後の所有者の小倉未亡人から東京市に寄付され、翌14年7月に東京市が有料で制限公開しました。なお、昭和53年10月に文化財保護法により国の名勝及び史跡の指定を受けました。

庭園ガイド

ボランティアが庭園の歴史、見所などをガイドします。
土曜・日曜の11時と14時に実施しています（無料）。
※気象状況等により実施を中止する場合があります。当日の実施についてはサービスセンターにお問合せください。

ハギのトンネル

竹で設えたトンネルに、伸びるハギを結束しながら仕立てたもので、百花園の名物です。9月下旬には全長約30mにわたって花のトンネルになります。

トンネル内部の様子

花の棚

フジは、５月上旬頃に棚全体に花房がさがり見頃を迎えます。また、園内には他ではみられないミツバアケビ、クズの棚があります。ミツバアケビは４月上旬頃に黒紫色の花をつけ、10月上旬頃には淡紫色に色づいた実もお楽しみいただけます。

８月に入ると、クズが紫紅色の花をつけ始め、見頃を迎える下旬頃からは、辺りは特有の甘い香りに包まれます。

フジ棚の様子

開園年月日／昭和14年7月8日　開園面積／10,885.88㎡（一部は国有地の無償貸付を受けています）
主な植物／ウメ・サクラ・ハギ・ウツギ類・サザンカ・ツバキ・春、秋の七草・各種山野草
催物／春の七草かご（1月）、七福神めぐり（1月）、虫ききの会（8月下旬）、月見の会（中秋の名月を挟んで3日間）
施設／集会場（御成座敷）、児童遊園

つる物棚

ヒョウタン、ヘチマ、ヘビウリは棚で栽培する一年生つる性植物で、７月頃開花し８月から９月にかけて、結実して棚から下がります。

七草の展示

春の七草（籠）、夏の七草、ハギをはじめとした秋の七草等、四季折々の七草が楽しめます。

新春を飾る献上七草籠

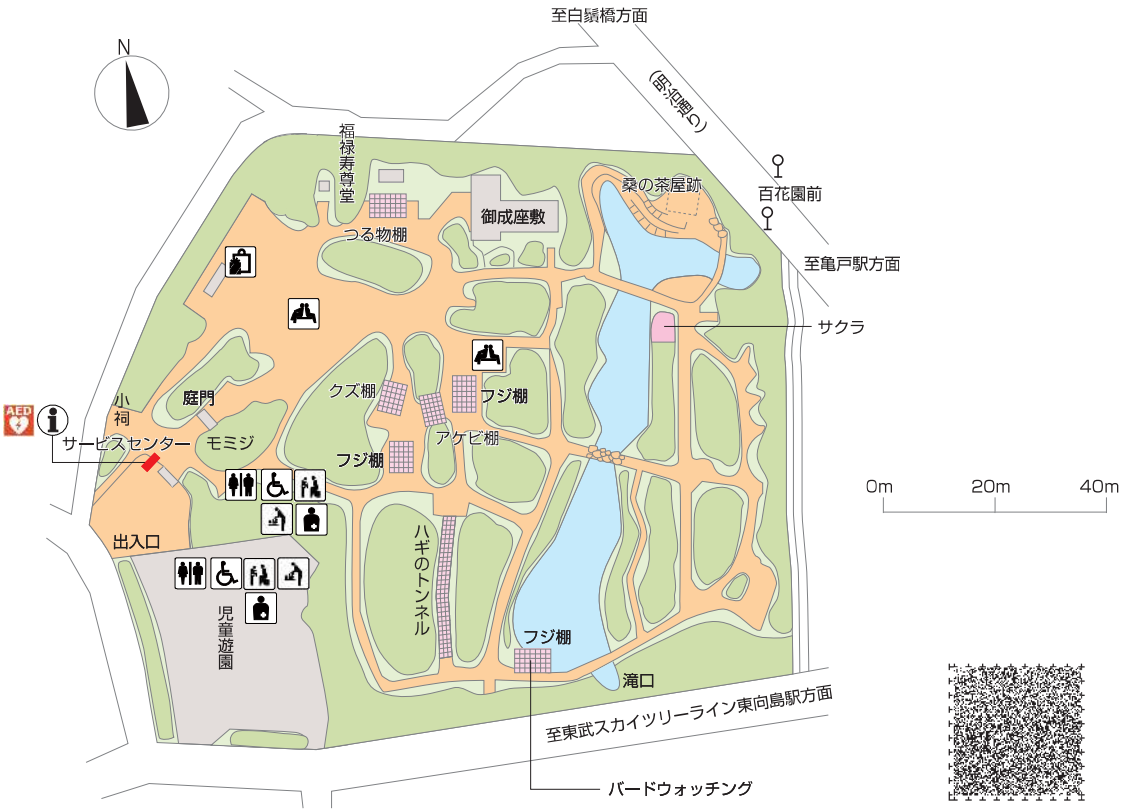
文人達の足跡

庭造りに力を合わせた文人墨客（ぶんじんぼっかく）たちの足跡もたくさんあります。例えば、入口付近の庭門には大田南畝（蜀山人）の「花屋敷」の扁額が掲げられ、両脇には詩人・大窪詩仏が書いた「春夏秋冬花不断」「東西南北客争来」の木板（聯（れん））がかかっています。そのほか、芭蕉の句碑を含め、合計29の句碑、石碑が随所に立っています。

百花園を象徴する庭門

向島百花園の花ごよみ

1～3月	ニホンスイセン、ツバキ、ウメ、フクジュソウ、セツブンソウ、ボケ、ロウバイ、フキノトウ、ツクシ、サンシュユ、ミツマタ、シュンラン
4～6月	カタクリ、シャガ、イカリソウ、ニリンソウ、キブシ、ゲンペイモモ、ニワウメ、ユスラウメ、レンギョウ、シャクナゲ、ボタン、シャクヤク、クマガイソウ、エビネ、シラン、コンニャク、サクラ、フジ、アジサイ、ハナショウブ、ノハナショウブ、トケイソウ、ホタルブクロ
7～9月	カワラナデシコ、キキョウ、オミナエシ、クズ、フジバカマ、ハギ、ススキ、ノウゼンカズラ、ヤマユリ、ヒオウギ、トロロアオイ、ゴジカ、ユウガオ、オシロイバナ、ツユクサ、オカトラノオ、ツルレイシ、ヒョウタン、ヘビウリ、タマアジサイ、テイカカズラ、ナンバンギセル、フヨウ
10～12月	サクラタデ、ホトトギス、シュウメイギク、サザンカ、コブクザクラ、ツワブキ



09

六義園（りくぎえん）

指定管理者■公益財団法人　東京都公園協会

●所　在　地　文京区
●問　合　先　☎03−3941−2222　六義園サービスセンター（〒113−0021　文京区本駒込6−16−3）
●交　　通　JR山手線・東京メトロ南北線「駒込」下車　徒歩7分、都営地下鉄三田線「千石」下車　徒歩10分
●休　園　日　12月29日〜1月1日
●入園時間　午前9時〜午後4時30分（閉園午後5時）
●入　園　料　一般300円、65歳以上150円　※小学生以下及び都内在住・在学の中学生は無料
●無料公開日　みどりの日（5月4日）、都民の日（10月1日）

元禄8年（1695年）、五代将軍・徳川綱吉から与えられたこの地に、柳澤吉保が7年の歳月をかけて「回遊式築山泉水庭園（かいゆうしきつきやませんすい）」を造りました。ここは平坦な武蔵野の一隅だったので、庭を造るにあたり池を掘り、山を築き、千川上水の水を引いて大泉水にしました。

六義園は吉保の文学的造詣の深さを反映し、和歌の趣味を基調とした繊細で温和な日本庭園になっています。庭園の名称は、中国の古い漢詩集である「毛詩」に記されている「六義」すなわち風、賦、比、興、雅、頌という詩の六つの分類法を引用し、紀貫之らが「古今和歌集」で記した和歌の六体（六義）に由来します。

庭園は中の島を有する大泉水を樹林が取り囲み、万葉集や古今和歌集に詠まれた紀州（現在の和歌山県）の和歌の浦の景色を始め、その周辺の景勝地や中国の故事にちなんだ景観が映し出されています。

庭園は明治時代に入って三菱の創業者である岩崎家の所有となり、昭和13年に東京市に寄付されて一般公開されました。なお、昭和28年3月31日に国の特別名勝に指定されました。

中の島・吹上茶屋

出汐湊（でしおのみなと）

「和哥の浦に月の出汐のさすまゝによるなくたづのこゑぞさびしき」という和歌にちなんで名付けられた大きく美しい曲線を描く大泉水の池畔です。

中の島（なかのしま）

「妹山」「背山」という二つの築山があり、女・男の象徴として仲睦まじさと子孫繁栄の願いが込められています。中の島の左奥に見えるのは、「吹上茶屋」です。

※中の島へ入ることはできません。

滝見茶屋（たきみちゃや）

滝見茶屋の辺りは、「紀川上（きのかわかみ）」、つまり、紀ノ川上流を映し出しています。岩の間を渓流が流れ、唯一水音が楽しめる場所となっています。昔は千川上水の水を引き入れていました。

吹上松（ふきあげのまつ）

六義園八十八境の一つであるこの松はアカマツで、六義園の主ともいえる存在です。

藤代峠（ふじしろとうげ）

園内で一番高い築山で、標高35mあります。現在の和歌山県海南市にある藤白峠（藤白の御坂）

藤代峠からの眺望は、絶景の一語

開園年月日／昭和13年10月16日　開園面積／87,809.41㎡
主な植物／クスノキ・ケヤキ・サクラ（シダレザクラ・ソメイヨシノ）・スダジイ・マツ類・アジサイ・モミジ類・サツキ・ツツジ類
施設／集会場（心泉亭）、茶室（宜春亭）

を模して造られました。
ここからの庭園の眺めは格別です。
4月中旬〜5月上旬、色とりどりのツツジで彩られます。

蛛道（ささがにのみち）

和歌三神といわれる衣通姫（そとおりひめ）の和歌「我がせこが来べき宵なりささがにの　蜘蛛のふるまひかねてしるしも」にちなむ名の道です。蜘蛛の糸のように細くても長く続きますようにという「永遠」の願いが込められています。

しだれ桜

正門から入り、内庭大門をくぐると正面にあります。昭和30年代に植栽されたものですが、古木にもひけをとらない大木となり、例年染井吉野よりも一足早く見ごろを迎えます。

しだれ桜

ツツジ

江戸時代、六義園の傍にはソメイヨシノを売り出したことで知られる「染井の植木屋」が並んでいました。元禄時代には、彼らが売り出したツツジの園芸ブームが江戸中に起きています。六義園には、キリシマツツジや珍しい古品種のツツジがたくさん植えられています。4月中旬頃から種類豊富で歴史あるツツジが開花し始めます。
なお、「つつじ茶屋」は岩崎家時代に建てられた茅葺の茶屋で、柱や梁にツツジが用いられた貴重な建物です。

紅　葉

10月下旬頃からハゼノキを皮切りに、紅葉が始まります。例年11月下旬頃〜12月上旬には多くのモミジが見頃となり、園内を鮮やかに彩ります。

花ごよみ

この庭園には、花の咲く草木も数多くあります。季節を追ってみると、代表的なものは次のようになります。

2月	サンシュユ、ウメ、ツバキ
3月	コブシ、しだれ桜
4月	ツツジ類、ヤマブキ、染井吉野
5月	ミズキ、エゴノキ、フジ
6月	アジサイ、サツキ
7月	サルスベリ、ムクゲ
9月	ハギ
11月〜12月	サザンカ、モミジ、ハゼノキ、イチョウ、トウカエデ

※和歌や名所、送り仮名、仮名づかいは、吉保が記した日記『楽只堂年録』の表記に準拠しています。